

授業概要

本演習は、地域経済（場所はどこでもいい）の課題解決のために課題の本質を深く研究する演習講座です。
例えば北海道北広島市は赤毛米、愛知県大府市は音楽による「まちづくり」を目指しています。その中心となるテーマが異なるのは地域によって歴史や文化が異なるからです。したがって、地域経済の課題解決を画一的なレベルではなく、その背後の歴史的・文化的なレベルから多面的に分析することが重要です。この考え方に賛同できる学生を求めます。なお、事前的な知識や能力は求めません。情熱とやる気のある学生を求めます。つまり、演習のテーマに関し共感や意欲・関心を抱く学生を募ります。その際に、意欲がある学生を最優先します。

課題の本質がわかるには思考の座標軸を持つことが必要であり、その役割を担ってくれる最善の方法が古典に学ぶことだと考えるので、アダム・スミスの『国富論』を輪読します。アダム・スミスの思考形態から地域経済の課題に光をあてることで課題の本質がわかるようになります。私が訴える古典の意義に共感し、目の前の現象のみにとらわれて形無しになることなく、伝統的な考え方の枠組みや分析の枠組みを知ろうとする学生を求めます。

協働できるように春期を中心に大学が実施するイベントや活動に積極的に参加・協力します。地域経済の現状や課題を客観的に捉えることができるように夏休みにフィールドワークを行います。フィールドワークの候補地は、北海道北広島市および愛知県大府市です。課題の本質がわかり問題提起ができるように秋期にアダム・スミスの思考形態を理解する上で必読の『国富論』第1編第5章を中心に輪読します。

4年生になり執筆した卒業論文の内容を、研究した地域の人々の前で自主的に発表し卒業後も当該地域の発展に自主的に貢献するような自立自走人材を育てることを、本演習の最終目的とします。

授業計画			
第 1 回	ガイダンス 授業概要と評価方法	第 16 回	今年度春期 振り返り
第 2 回	前年度秋期 振り返り	第 17 回	報告 体験の中で気づいたこと
第 3 回	フィールドワーク 調査地の決定	第 18 回	産学連携活動 参加（協力）準備
第 4 回	体育祭 紹介・参加申込	第 19 回	大学祭 出展準備
第 5 回	図書館ツアー データベース検索	第 20 回	報告 ノートに書いた観察記録
第 6 回	ゼミ紹介文作成 写真撮影	第 21 回	文献輪読とは 問題提起の重要性
第 7 回	オープンキャンパス 紹介・参加申込	第 22 回	文献輪読 発表担当者の割り振り
第 8 回	書かれていない知りたい情報は何か	第 23 回	事前報告 読んできて欲しい箇所等
第 9 回	自然体験プログラム 紹介・参加申込	第 24 回	報告① 第1編 第5章
第 10 回	キーパーソンへ依頼をする	第 25 回	報告② 第1編 第5章
第 11 回	フィールドワーク 行程表の作成	第 26 回	報告③ 第1編 第5章
第 12 回	メモの取り方 あとで使えるように	第 27 回	報告④ 第1編 第5章
第 13 回	産学連携活動 紹介・参加（協力）申込	第 28 回	報告⑤ 第1編 第5章
第 14 回	大学祭 紹介・参加申込	第 29 回	報告⑥ 第1編 第5章
第 15 回	夏季休暇 課題の整理	第 30 回	報告⑦ 第1編 第5章
		第 31 回	

到達目標

- ・地域経済への関心が固まり、地域経済の現状や課題を客観的に捉えることができる。
- ・要約および問題提起を含む報告資料を事前に作成することができる。
- ・双方向型のプレゼンテーション（活発なディスカッション）ができる。

履修上の注意

- ・この授業は、PBL（Project Based Learning）を積極的に用い、学生間での意見交換を重視し参加型の演習を行います。特別講師等を外部から招聘する場合があります。費用負担が生じる活動があります。
- ・シラバスの内容は、参加者の人数や受講学生の関心などに応じて調整・変更される場合があります。また、通常の学内教室以外で授業（学外授業）を実施する場合があります。遅刻3回で欠席1回分にカウントします。
- ・必要なら初歩的レベルから丁寧に解説をしていくので、基礎知識がなくてもやる気さえあれば十分な能力を身につけられるように指導します。教科書は難しい部分もありますが、議論しながら理解できるように指導します。

予習・復習

予習・復習および発展学習を兼ねて教科書をよく読むこと。

評価方法

発表 50%、演習などへの取り組み姿勢 50%で評価します。また、毎回出席を取ります。

テキスト

- ・教科書名：国富論（1）（白105-1） ・著 者 名：アダム・スミス：水田洋監訳；杉山忠平訳
- ・出版社名：岩波書店 ・出版年月：2000年5月 ISBN：978-4-00-341051-6 本体 1,130円＋税

授業概要

止まないコロナ感染症、地球温暖化の加速や自然災害の増加、ウクライナとロシアの戦争等、私たち人類は試練の時を迎えています。一方で人類の英知を結集した種々のテクノロジーの恩恵により、新たな未来型のライフスタイルを手に入れることが出来るようになってきました。反面、国内事情においては、日本の食料自給率は先進諸国において最も低く、深刻さが一層増しています。本演習では、このように変化の激しい時代に求められるビジネスについて検討します。現在政府は、「デジタル田園都市国家構想」を打ち出しており、「地方創生」を目指しています。また、AIやビッグデータ、IoT、ロボットなどの発展による「第4次産業革命」が進行中であり、「Society 5.0」を提唱し、「超スマート社会」の実現を目指しています。更に経済産業省では、「第5次産業革命」を見据え、バイオテクノロジーが拓く「バイオエコノミー社会」の実現を牽引しています。これらの最新の動向について理解を深めながら、自身の未来というキャンパスに様々な要素を描けるよう、グループディスカッションや個別研究プレゼンテーションを実施しながら、本学の教育理念である「自立と共生」、すなわち自らの頭で考え、自らの足で立ち、豊かなコミュニケーション力を修得できるよう指導します。

授業計画

第1回	地球は人類だけのものではない	第16回	バイオ産業
第2回	第1次から第5次産業革命まで	第17回	日本の食料事情とスマート農業
第3回	SDGs	第18回	医療・介護・福祉ビジネス
第4回	平均寿命の延びと健康寿命	第19回	健康・予防ビジネス
第5回	ホモ・エコノミクス	第20回	スポーツビジネス
第6回	幸福と経済の関係	第21回	環境・エネルギービジネス
第7回	地球温暖化・自然災害	第22回	北海道・東北地方の産業
第8回	感染症と人類の戦い	第23回	関東の産業
第9回	人々のニーズとライフスタイルの変化	第24回	北陸・中部地方の産業
第10回	政治におけるリーダーと人々の生活	第25回	近畿地方の産業
第11回	デジタル田園都市国家構想	第26回	中国・四国地方の産業
第12回	Society 5.0	第27回	九州・沖縄地方の産業
第13回	地方創生	第28回	地球全体の課題の抽出
第14回	超スマート社会	第29回	日本社会の課題の抽出
第15回	バイオエコノミー社会	第30回	新たなビジネスの創造
		第31回	試験

到達目標

- ・最新の社会・経済用語を説明できる。
- ・未来思考で物事を考えることができ、課題に対する具体的な解決方法を検討することができる。
- ・チーム力を修得する。・個別テーマを掘り下げることができる。・プレ社会人としてのスキルを修得する。

履修上の注意

就職試験に役立つ知識を修得できるよう指導しますので、自分の将来のキャリアパスを描き、実現に近づけましょう。業界研究も行いますので、卒業研究論文のテーマも絞り込めるようにしましょう。社会実装をリアルに学ぶ機会として産学連携事業へ参加もしますので、是非プレ社会人としてのスキルを修得しましょう。

予習復習

専門用語や最新の用語が多いので、事前学習(1時間程度)及び各単元後の復習(1時間程度)必要

評価方法

試験(最終レポート含む) 60%、小レポート及びプレゼンテーション 40%

テキスト

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| ・教科書名：今がわかる時代がわかる『日本地図』最新版 | 教科書名：日経キーワード2022-2023 |
| ・出版社名：成美堂出版 | ・出版社名：日経HR |
| ・出版年：2022年秋 1600円 | ・出版年：2021年12月 1150円 |

授業概要

専門演習では、まず、企業の経済活動に関する情報について『有価証券報告書』を使用して、企業が開示する情報を具体的に理解することから始める。そして、ゼミ生が考える社会的課題をまとめたうえで、その課題解決に貢献する企業を探す、という流れで演習を進める。

基本的には、ゼミ生がレジュメを作成し、プレゼンを行う形式を予定している。履修者の人数にもよるが、例年、秋期にはグループワークによるレポート作成コンテスト（学外主催）への投稿を行う指導をしている。

また、就職活動の準備には、筆記試験（SPI など）やグループワークがゼミ活動としては欠かせないと考えているため、適宜、それらにかかわる内容を指導する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス・上場企業について	第 16 回	夏季休業期間中の課題の報告
第 2 回	上場企業の選択と下調べ	第 17 回	上記報告を踏まえた課題の討論
第 3 回	有価証券報告書の概要	第 18 回	各自の社会的課題に関連する討論
第 4 回	主要な経営指標①（各種伸び率など）	第 19 回	チームの社会的課題に関連する討論
第 5 回	主要な経営指標②（利益率・キャッシュフローなど）	第 20 回	スクリーニング基準の検討
第 6 回	沿革と事業の内容	第 21 回	第 1 スクリーニング基準の検討
第 7 回	企業集団など	第 22 回	上記基準を適用した企業選定
第 8 回	経営の基本方針	第 23 回	第 2 スクリーニング基準の検討
第 9 回	業績の概要	第 24 回	上記基準を適用した企業選定
第 10 回	対処すべき課題	第 25 回	仮想資金の投資先の決定
第 11 回	事業リスク	第 26 回	仮想資金の投資金額の配分
第 12 回	秋期テキスト（前半）の輪読	第 27 回	レポートの完成・提出
第 13 回	秋期テキスト（後半）の輪読	第 28 回	プレゼンテーション準備や資料作成
第 14 回	各自が考える社会的課題の報告	第 29 回	プレゼンテーション
第 15 回	まとめと第 16 回に向けてのガイダンス、夏季課題のガイダンス	第 30 回	専門演習の振り返りと結び付けた春期休業中の就職活動に関する指導
第 16 回	上記の概要をまとめたレポート提出	第 31 回	プレゼンをまとめたレポート提出

上記項目は目安であり、進捗や人数により適宜変更・調整する。

到達目標

- ・『有価証券報告書』における「企業の概況」「事業の状況」の記載内容を知る。
- ・自らがテーマを探し、そのテーマについて共同作業でレポートを完成させる。（共同作業なのでチームにおける自分の役割を理解し、積極的に討論に参加する。）

履修上の注意

- ・専門演習は卒業までの 2 年間にかかわるので、登録前に必ず面談し、担当者の意図を理解した上で選択すること。
- ・履修指導を含め、通常の演習時間以外の活動（例えば、キャリアセンター主催の行事）など就職活動にかかわる内容を積極的に指示する。また、他学年や他ゼミなどと合同で学内・学外授業を実施することがある。

予習復習

- 予習・春期：各自の選択した会社の『有価証券報告書』の指定部分の報告レジュメの作成。
- ・秋期：テーマに関する報告資料の検索と討論で説明・回答するための内容の検討。
- 復習・春期：報告レジュメに対する討論内容を反映したレポートの作成。
- ・秋期：テーマに対する報告内容についての共著レポートの作成。

評価方法

- ・グループワークにおける積極的な参加姿勢やレジュメ作成といった平常点（50%程度）および提出された課題（50%程度）を目安に評価する。

テキスト

春期は EDINET から出力する。秋期は学外主催のレポート提出企画に参加予定であり、ダウンロードする小冊子を使用する予定である（なお、受講人数が少なければ別にテキストを 1 冊購入する（書籍未定））。

授業概要

この演習では、観光産業について広く学び、観光ビジネスの特性や現場で行われていること、今後の動きを見通しながら観光全般についての理解を深めていきます。

現在社会における観光の重要性を理解したうえで、卒業論文のテーマを想定し、観光業・観光関連業務に従事することも視野に、興味を広げ、自分なりの学ぶ姿勢を身に着けます。

授業計画

第 1 回	春期ガイダンス	第 16 回	秋期ガイダンス
第 2 回	観光の意義、人や企業や地域への効果	第 17 回	観光政策と観光行政、その1
第 3 回	観光に関するワードと内容	第 18 回	観光政策と観光行政、その2
第 4 回	観光産業で働くこと	第 19 回	課題研究、その1
第 5 回	観光資源の多様性	第 20 回	課題研究、その2
第 6 回	観光ビジネス（宿泊、鉄道、航空、MICE、DMO）	第 21 回	マストツーリズムからニューツーリズム
第 7 回	旅行業（商品、地域との関わり）	第 22 回	インバウンドの取組み
第 8 回	旅行業（消費者保護、旅行業離れ）	第 23 回	DMO について
第 9 回	宿泊産業（ホテル）	第 24 回	DMO と地域活性化
第 10 回	宿泊産業（旅館・その他）	第 25 回	個別テーマ・ヘルスツーリズム
第 11 回	宿泊産業（旅館の復活）	第 26 回	個別テーマ・コンテンツツーリズム
第 12 回	観光交通・環境・バリアフリー	第 27 回	個別テーマ・オーバーツーリズム
第 13 回	テーマパーク・スキー場・展示施設	第 28 回	個別テーマ・Web 販売
第 14 回	観光情報、ツール、媒体、IT 活用	第 29 回	個別テーマ・SNS の活用
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	卒業論文について

到達目標

- 観光に関する分野を幅広く学び、興味のある分野については現状の問題点について指摘できる。
- 観光に関する興味のある分野の情報、資料、文献を収集し、与えられたテーマに対して自分の考えをレポートとして記述できる。
- 観光に関する興味のある分野について、自ら情報収集、資料整理を行いメンバーに説明ができる。

履修上の注意

演習を通して、視野を広く持てるよう全体の理解を深めつつ、個別のテーマに興味を持って、掘り下げる方法について試行錯誤をしてください。

予習・復習

演習後に自分で内容の確認、整理、復習を行ってください。興味がある分野については自ら調べて、まとめて考察すること。秋期途中から、研究テーマの設定、レポート作成などを行う予定です。

評価方法

チェックテストやレポートの配点が60%、授業での発言、姿勢などで40%の配点。

テキスト

使用しませんが、必要に応じて演習中に案内します。

授業概要

この演習では、経営学、特にイノベーションや組織の競争力の源泉（その組織にしかない強み）について検討、議論します。例えば、インスタントラーメンや QR コードなど身近な製品がどのように開発されたのか、ユニクロモデルなどのビジネスモデルの特徴はなにか、など学生が興味をもった製品やビジネスを調べて、発表をし、それについて全員でディスカッションをします。授業以外のゼミ・イベントは、企業訪問、夏合宿、他大学との合同ゼミなどを実施します。また問題解決型のビジネスコンテスト（希望者）に参加し、経営課題の解決案の立案を実践します。これらを通じて経営学の理論だけではなく、実践的な知識を習得し、経営や企業活動について理解を深めてください。なお、講読する文献については、初回の演習で決定する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス	第 16 回	ガイダンス
第 2 回	組織のイノベーションについて	第 17 回	競争力、ビジネスモデルについて
第 3 回	文献講読①	第 18 回	文献講読①
第 4 回	文献講読②	第 19 回	文献講読②
第 5 回	文献講読③	第 20 回	文献講読③
第 6 回	文献講読④	第 21 回	文献講読④
第 7 回	文献講読⑤	第 22 回	文献講読⑤
第 8 回	事例発表①	第 23 回	事例発表①
第 9 回	事例発表②	第 24 回	事例発表②
第 10 回	事例発表③	第 25 回	事例発表③
第 11 回	事例発表④	第 26 回	事例発表④
第 12 回	事例発表⑤	第 27 回	事例発表⑤
第 13 回	事例発表⑥	第 28 回	事例発表⑥
第 14 回	事例発表⑦	第 29 回	事例発表⑦
第 15 回	事例発表⑧	第 30 回	事例発表⑧

到達目標

- ① 企業のイノベーション活動について理解する
- ② 競争力の源泉、ビジネスモデルについて理解する
- ③ 学術研究を理解し、論理的思考能力、批判的思考能力を鍛える

履修上の注意

- ・文献講読は、毎回レジュメ（該当部分の要約とコメント）を作成してください。
- ・事例発表は、自分の興味ある製品・サービス、ビジネスモデルについて調査し、発表することを求めます。
- ・演習のディスカッションは、自分の意見を積極的に発表する訓練の場としてください。
- ・企業訪問、夏合宿、合同ゼミ、ビジネスコンテストなど、積極的に参加してください。

予習・復習

次回の文献講読、事例発表についてしっかりと事前準備をして演習に参加してください。また、演習で学んだ理論について復習してください。

評価方法

レジュメの作成・発表内容：50%
ディスカッションへの貢献：50%

テキスト

指定はしません。

授業概要

1936 年（昭和 11 年）創刊以来、「会社四季報」は、77 年にわたって刊行を続け、繊維から鉄鋼、造船、自動車、エレクトロニクスへと、うつろいゆく産業を一貫して講義する。経済・財務知識に長けた業界の担当者が、毎回、全上場企業を取材した結果がテキストになっている。第 3 者的な立場で独自の視点で企業業績の評価、展望を講義する。専門知識の解説と、徹底した中立性を保つように心がけている。そうして培われた信頼により、「企業情報誌のバイブル」としてのテキストを使いながら世代を超えて各業界を指導したい。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	薬
第 2 回	自動車	第 17 回	娯楽エンタメ
第 3 回	機械	第 18 回	メディア
第 4 回	エレクトロニクス機器	第 19 回	建築
第 5 回	情報通信	第 20 回	不動産
第 6 回	インターネット	第 21 回	運輸
第 7 回	資源	第 22 回	物流
第 8 回	エネルギー	第 23 回	流通
第 9 回	素材	第 24 回	外食
第 10 回	金融	第 25 回	生活
第 11 回	法人サービス	第 26 回	公共サービス
第 12 回	食品	第 27 回	注目業界
第 13 回	農業	第 28 回	学生によるプレゼンテーション
第 14 回	生活用品	第 29 回	学生によるプレゼンテーション
第 15 回	嗜好品	第 30 回	学生によるプレゼンテーション
		第 31 回	学期末テスト

到達目標

これから伸びる業界がどこなのか自分で判断できるような講義にしたい。気になる銘柄の業界内のポジションが一目瞭然に理解できる。報道されたニュースで影響を受けた企業を調べておきたい。などの期待にこたえることが目的として出来るようになる。講義の後半では、自身の将来進みたい業界について、よく調べプレゼンテーションをする。

履修上の注意

学生と講師によるディスカッションを本講義では大切にしたいと考えている。

予習・復習

- ★事後学習として、授業で取り上げるケーススタディに関する課題レポートを課す。
- ★企業を取り巻くグローバル経済・社会の最近の動向について、新聞記事・テレビでニュース・インターネット等を活用し企業の経営活動や経営戦略を定期的にフォローすること。
- ★関心のある企業の「経営戦略」（多くの企業で「中期経営計画」として企業のホームページでの「企業情報」や「IR（投資家向け情報）」に公表されている）を読み（ホームページで閲覧可能）、専門用語等についての理解を深めておくことが望ましい。
- ★本講義では、学生と講師によるディスカッションを大切にしたいと考えている。

評価方法

1】学期末試験（50%）2】プレゼンテーション（40%）3】講義への貢献度、レポートの作成（10%）

テキスト

- ・教科書名：『「会社四季報」業界地図 2024 年版』
 - ・著 者 名：東洋経済新報社
 - ・出版社名：東洋経済新報社
 - ・出 版 年（ISBN）：2023（978—4492973332）
- また、教員オリジナルの資料も使用する。実際の経営資料等も含まれるため事前配布は行わない。必要に応じて、授業後に配布可能なスライドを配布する。

授業概要

本演習では、企業会計理論の学習を対象として、特に国際会計の全般的、基礎的把握に努めて、各自の関心分野についての問題意識の形成、問題の構築、問題の分析を行う。特に、演習後半では、卒業論文の作成に備え、論文作成に必要な基礎（レジュメの書き方や発表の仕方）の取得も合わせて進める。

授業計画

春期では、国際会計の基礎的知識をマスターするために、関連資料を選定し輪読する。
秋期では、各自が関心をもつテーマについて報告と討論を行う。
また、各期3回以上のレポートの提出を求める。

第 1 回	国際会計の意義と研究領域	第 16 回	各自のテーマの報告と討論 1
第 2 回	国際会計制度の沿革 1（IASC）	第 17 回	各自のテーマの報告と討論 2
第 3 回	国際会計制度の沿革 2（IASB）	第 18 回	各自のテーマの報告と討論 3
第 4 回	主要国の会計国際化 1	第 19 回	各自のテーマの報告と討論 4
第 5 回	主要国の会計国際化 2	第 20 回	各自のテーマの報告と討論 5
第 6 回	主要国の会計国際化 3	第 21 回	各自のテーマの報告と討論 6
第 7 回	IFRS の理論構造と特徴 1	第 22 回	各自のテーマの報告と討論 7
第 8 回	IFRS の理論構造と特徴 2	第 23 回	各自のテーマの報告と討論 8
第 9 回	IFRS の理論構造と特徴 3	第 24 回	各自のテーマの報告と討論 9
第 10 回	IFRS の要点解説（B/S 項目）	第 25 回	論文作成の基礎 1
第 11 回	IFRS の要点解説（B/S 項目）	第 26 回	論文作成の基礎 2
第 12 回	IFRS の要点解説（B/S 項目）	第 27 回	論文作成の基礎 3
第 13 回	IFRS の要点解説（P/L 項目）	第 28 回	論文作成の基礎 4
第 14 回	IFRS の要点解説（P/L 項目）	第 29 回	論文作成の基礎 5
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ
		第 31 回	定期試験

到達目標

- ・発表レジュメの作成と完成度を向上できる。
- ・卒業論文作成の基本を習得できる。

履修上の注意

- ・毎回必ず出席してほしい。
- ・演習は参加型授業なので、積極的に、発言、議論してほしい。

予習・復習

毎回の学習テーマについて予習及び復習をしてほしい。

評価方法

講義時の積極性（授業態度を含む）20%、レジュメ・発表のでき具合 40%、定期試験 40%

テキスト

- ・開講時に指示する。
- ・必要に応じて、プリントなどを配布する。

授業概要

現代社会には国内外にさまざまな解決すべき課題がある。その課題に対して、基礎演習での知見（学び）を活用し、定量的なデータの分析や定性的な観察・考察を通じて、社会合理的な課題解決策をプレゼンテーションやレポートという形で提示していくプロセスを学ぶ。取り上げる課題の例には、▽シャッター通り対策▽高齢ドライバーの事故対策▽鉄道・バスの長期的な輸送需要減少▽新幹線網の拡充▽オーバートーリズム対策▽人流・物流産業での人手不足▽大量の情報をシャワーのように浴び続ける社会問題などがある。

このプロセスでは、経済学や経営学のコアだけでなく、大学生としての総合的な学び・教養が必要である。これが「社会人基礎力の涵養」につながる。この演習ではそれらを「学ぶは楽しい」のモットーの下で培う。また、この演習では、基礎演習と縦断的に埼玉高速鉄道との産学連携プロジェクトも取り組む。

授業計画

第 1 回	ガイダンス	第 16 回	ガイダンスと前期のふり回り
第 2 回	交通サービス・観光サービスの基本	第 17 回	交通政策に関わる法律(1)
第 3 回	交通の経済的規制(1)	第 18 回	マイナビ「課題解決プロジェクト」(1)
第 4 回	交通の経済的規制(2)	第 19 回	マイナビ「課題解決プロジェクト」(2)
第 5 回	交通・観光の社会的規制(1)	第 20 回	マイナビ「課題解決プロジェクト」(3)
第 6 回	交通・観光の社会的規制(2)	第 21 回	人口減少とまちづくり
第 7 回	政府・自治体からの補助(1)	第 22 回	まちづくり政策（人口減少対策）(1)
第 8 回	政府・自治体からの補助(2)	第 23 回	まちづくり政策（人口減少対策）(2)
第 9 回	政府・自治体の関与	第 24 回	埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(6)
第 10 回	埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(1)	第 25 回	埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(7)
第 11 回	埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(2)	第 26 回	埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(8)
第 12 回	埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(3)	第 27 回	埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(9)
第 13 回	埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(4)	第 28 回	ICT のさらなる進化に応じた政策変革
第 14 回	埼玉高速鉄道との連携プロジェクト(5)	第 29 回	卒業論文の準備(1)
第 15 回	ふりかえりと後期の計画確認	第 30 回	卒業論文の準備(2)とふりかえり

到達目標

- (1) 交通を中心に観光やまちづくり、情報通信技術に関して、自ら資料などを収集し、意見交換、発表できる
- (2) 埼玉高速鉄道との産学連携プロジェクトに取り組むことで、「社会人基礎力」の実践レベルを涵養する
- (3) 論文を作成するための基本的な作業を修得し、論文のテーマを設定できる

履修上の注意

- (1) 能動的な演習形式であるため、履修生各自の“やる気”が最も問われる
- (2) 埼玉高速鉄道との産学連携プロジェクト含む PBL (Project/Process Based Learning) を基本とする
- (3) 原則として、ノートパソコンを持参する（毎回とは限らない、事前に告知する）
- (4) 演習時間割以外の時間に活動し、その際に交通費など費用が発生することがある
- (5) 履修生どうしの意見交換（ディスカッション）を重視する
- (6) やむを得ない事由で欠席・遅参する場合は、必ず演習開始前までに連絡する（無連絡欠席を厳禁する）
- (7) 休日を含む演習時間外での学習やさまざまな作業が想定される
- (8) 専門演習では、大いに「失敗」してほしい。ただし、「同じ失敗」は許されない
- (9) 履修生数や連携プロジェクトの進捗などにより、上記の授業計画を変更することがある

予習・復習

自分自身の興味・関心のあるところをさらに調べ、自分の考え、問題解決手法の提案などを表明できるよう、復習することが、次回への準備につながっていく（復習・予習 90 分）。

評価方法

①発表の準備状況 35%、②ディスカッションへの参加状況 35%、③論理的な意見表明 30%、の 3 点で評価する。ただし、成績評価には、出席ポイント 10.0pt 以上が必要条件である。

テキスト

必携するテキストを指定しない。ただし、テーマや必要に応じて演習中に紹介する。

授業概要

「経営戦略とリーダーシップ」をテーマとする経営学領域の演習である。

経営戦略とは、企業が存続発展するための重要な指針である。本演習では、将来社会で活躍できるビジネスパーソンを育成すべく、戦略について書かれた文献を用いてその内容をじっくりと紐解きながら、「戦略とは?」、「戦略思考とは?」などを深く探究している。分担にしたがって毎回担当者が発表し、全員で内容を吟味し議論するスタイルである。

これらを通じて、読解力・コミュニケーション能力・文章力など、就職活動のみならず、社会に出ても役立つ基礎能力やリーダーシップを身につけるよう指導する。

授業計画

第 1 回	春期概要：経営戦略の理論を学ぶ	第 16 回	秋期概要：リーダーシップを養成する
第 2 回	良い戦略とは？	第 17 回	戦略的思考：論理的批判的思考
第 3 回	悪い戦略とは？	第 18 回	戦略的思考：システム思考
第 4 回	グループワーク①	第 19 回	戦略的思考：戦略的意思決定
第 5 回	競争戦略	第 20 回	戦略的思考：戦略とリーダーシップ
第 6 回	5 つの競争要因	第 21 回	企画力：チームビルディング
第 7 回	競争優位	第 22 回	企画力：発想法
第 8 回	グループワーク②	第 23 回	企画力：ファシリテーション
第 9 回	価値創造	第 24 回	企画力：ディスカッション
第 10 回	トレードオフ	第 25 回	企画力：企画の実現
第 11 回	適合性	第 26 回	業界分析
第 12 回	継続性	第 27 回	企業分析
第 13 回	グループワーク③	第 28 回	職種分析
第 14 回	プレゼンテーション	第 29 回	自己分析
第 15 回	総括	第 30 回	グループワーク
		第 31 回	筆記試験等（含むレポート）

到達目標

- ・ 経営戦略論の専門書を理解できる能力を身につけることができる。
- ・ 理解した内容をデータ化し解説できる能力を身につけることができる。

履修上の注意

- ・ 指定する経営戦略の専門書を購入する必要がある。
- ・ 新聞記事やネット記事を読み、その内容についてプレゼンテーションやディスカッションなどを行い、社会人基礎力を鍛える。これらは就職活動のみならず、社会に出た後にも役立つものである。

予習復習

- ・ 発表者は発表内容を文書化し全受講生は文献を精読して来ることが予習である。
- ・ 復習として授業の内容をデータ化する。

評価方法

- ・ プレゼンテーション能力の向上によって評価する。
 - ・ この評価には読解力（30％）・文章力（40％）・発言力（30％）の向上などを含む。

テキスト

授業内で指定する

授業概要

この演習はデータサイエンスの実践的内容と AI への応用を学ぶことを目標とします。データサイエンスにおいては、分析の実践的な手順や準備の仕方・代表的な分析手法を理解し、課題に合わせて適切な手順や手法を用いることが必要です。また、出力される数値や法則に基づく構造理解と価値創造ということを真に理解しなければ、役に立つ分析とはなりません。この演習では、グループ研究を通じて、これら実践的なことを学びます。また、データサイエンスの各種手法を機械学習機能として AI に取り込むには、Python でプログラムを作成することができなくてはなりません。そのため、この演習では Python ベースでデータサイエンスを学びます。4 年次にはより進んだデータサイエンスや量子コンピュータを使ったデータサイエンスへと進みますが、そのときもこの専門演習での学習内容が基礎となります。

授業計画

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	グループ研究と卒業研究について	第 17 回	テキスト生成 1 (RNN と GRU)
第 3 回	Anaconda のインストール	第 18 回	テキスト生成 2 (コーパスの準備)
第 4 回	各種モジュールのインストール	第 19 回	テキスト生成 3 (モデル構築・学習)
第 5 回	NumPy 1 (テンソル・演習)	第 20 回	テキスト生成 4 (テキスト生成)
第 6 回	NumPy 2 (演習)	第 21 回	強化学習 1 (強化学習を体験する)
第 7 回	各種データのテンソル化	第 22 回	強化学習 2 (状態・観測・報酬)
第 8 回	ニューラルネットワークの構造	第 23 回	強化学習 3 (情報のやり取り)
第 9 回	TensorFlow と Keras	第 24 回	強化学習 4 (強化学習の目的)
第 10 回	ニューラルネットワークの基本練習	第 25 回	強化学習 5 (報酬和)
第 11 回	Matplotlib 1 (基本操作)	第 26 回	強化学習 6 (動的計画法)
第 12 回	Matplotlib 2 (オブジェクト)	第 27 回	強化学習 7 (Q 学習)
第 13 回	分類問題 1 (データの準備)	第 28 回	強化学習 8 (実装)
第 14 回	分類問題 2 (モデル構築・学習)	第 29 回	強化学習 9 (実装(続))
第 15 回	卒業研究の進め方	第 30 回	グループ研究の成果発表
		第 31 回	年間学習内容の確認

到達目標

- (1) データサイエンスについての理解を深め、実践的な分析ができる。
- (2) ニューラルネットワーク・強化学習を理解できる。

履修上の注意

この演習は Python でのプログラミングができる人(例:「プログラミングⅠ・Ⅱ」を履修した人、履修中である人)を対象としています。また「データサイエンス」および全学共通科目の「数学(線形代数基礎)」「数学(解析基礎)」を履修したか履修予定である必要があります。演習はゼミ室でノート PC を用いて行います。そのため、各自のノート PC を持って来てもらいます。

欠席や遅刻をすると、学習内容がだんだん分からなくなってくる。欠席の場合は、メールで事前に連絡してください。メールアドレスはオリエンテーション時にお伝えします。また、グループ研究を行いますので、各自が自覚をもってグループの運営に取り組んでください。

就職に関する指導を行います。例) 就活の進め方、エントリーシートの書き方

予習・復習

予習: テキストや配布プリントの指定箇所を精読しておいてください。

復習: 学習内容をよく復習し、体系的理解ができるようにしてください。

評価方法

ゼミへの貢献(学習への積極的関与) 40%、グループ研究への貢献 60% で評価します。
ただし、出席回数が 3 分の 2 に満たない人は成績評価できませんので注意してください。

テキスト

オリエンテーション時に指定します。

授業概要

この授業は、ICT（情報通信技術）を学び、それを企業経営や経営管理に生かしていく上で、最近、注目されているいくつかの技術の事例を含めて、学習し習得することを目指している。近年、注目されている技術としては、AI(人工知能)とブロックチェーン技術がある。この2つを中心にその理解と活用方法を学び、事例を紹介しながら、社会における使用状況を知る。AIの理解には、クラウドコンピューティングとして、Amazon AWSを使用する。また、AI(人工知能)とブロックチェーン技術により、社会や個人の生活がどのような変化が生じ、未来の展望を考えたい。また、本学のデータサイエンスコースでの重要な領域であるAI演習を行い、学生の知識と技術を向上させることを目指す。

授業計画

第1回	AI(人工知能)の理解ー1	第16回	ブロックチェーン技術とは
第2回	AI(人工知能)の理解ー2	第17回	暗号資産との関係
第3回	AI(人工知能)の理解ー3	第18回	暗号資産の種類
第4回	AIをanaconda環境で使う	第19回	ブロックチェーン技術の可能性
第5回	pythonの理解	第20回	ブロックチェーン技術の課題
第6回	python演習1	第21回	ブロックチェーンの活用1
第7回	python演習2	第22回	ブロックチェーンの活用2
第8回	python演習3	第23回	卒論に向けた研究テーマ検討
第9回	python演習4	第24回	AI(人工知能)の開発1
第10回	python演習5	第25回	AI(人工知能)の開発
第11回	AI(人工知能)の演習1	第26回	AI(人工知能)の開発
第12回	AI(人工知能)の演習2	第27回	AI(人工知能)の社会への影響
第13回	AI(人工知能)の演習3	第28回	来年度卒業研究テーマを検討する
第14回	前期学習内容のまとめ	第29回	卒論テーマ案の検討ー1
第15回	AI理解の発表準備	第30回	卒論テーマ案の検討ー2
第16回	前期学習の発表	第31回	各自卒論テーマ(案)の発表

到達目標

1. ICT（情報通信技術）を学び、それを企業経営や経営管理に生かしていく構想を立案することができる。
 2. AI(人工知能)とブロックチェーンの技術を理解して、その事例を含めて、学習し習得することにより、今後、活用していく知識身に付ける。
- 上記の2つを目標としている。

履修上の注意

前半は、座学と演習を中心にAIの知識を深める勉強をします。後半は、演習を取り入れて学習しますので、ノートPCまたはタブレットを使用することになります。また、卒業研究のテーマの検討や就職に関する指導を行います。

予習・復習

各講義の内容について事前事後に自分でインターネットや本を基に学習することが望ましい。

評価方法

演習時間での積極的な発言や姿勢（30%）レポート提出（30%）及び演習の成果発表（40%）で評価する

テキスト

- ・教科書名： 別途 連絡する
- ・著者名：
- ・出版社名：
- ・出版年：